

<p>クラス：</p>	<p style="text-align: center;">聴く・話すための発音 II Pronunciation for Listening and Speaking - よりスムーズなコミュニケーションのために - EPrM-62BH</p>
<p>曜日：</p>	<p>Saturday (隔週)</p>
<p>時間</p>	<p>14:30-16:20</p>
<p>レベル：</p>	<p>中上級</p>
<p>講師：</p>	<p>Ms.大石美幸</p>
<p>目的：</p>	<p>「聴く・話すための発音 I」を終了した学習者が、学んだ「英語の音の特徴と仕組み」を踏まえ、更に「英語の音体系」の理解を深め、実践応用を向上させることを目的とします。</p> <p>「聴く・話すための発音 I」同様、本講座の目指すところは、「発音のための発音」を超えた、「よりスムーズなコミュニケーション」です。「英語の音の特徴と仕組み」を、a) 個々の音、b) 語強勢と文強勢、c) イントネーション、d) 実践応用上現れる諸現象の四つの観点から学んでいきます。</p>
<p>授業内容：</p>	<p>上記四視点で構成されたテキストに沿い、英語の音の仕組みを学び、発音練習で身に付けていきます。</p> <p>a) 英語は日本語と違い、音と綴りが一致しません。まずそのことを理解したうえで、全母音、全子音の各音(音素/phonemes)を学び、身につけます。</p> <p>b) 音節(syllables)、強母音(strong vowels)と弱母音(weak vowels)の概念を理解し、個々の音が語(word)になった時、更には句(phrase)や文(sentence)になった時の音の変化を学びます。文中語句の切り方とつなげ方、英語らしい強弱のリズム、品詞による強弱音分別の仕組みを学び身に付ける練習をします。</p> <p>c) 英語の様々な抑揚の型(intonation patterns)を学び、それぞれが司る機能、微妙なニュアンスや気持ちの表現を理解し、目的に合った表現ができることを目指します。</p> <p>d) 上記理論を実践応用する際に生じる諸現象の対処法を 1) 速度(Speed)、2) 機能別トーン(Tone)、3) 英米以外の世界の地域で聞かれる様々な英語の音(Accents)の観点から学びます。</p>
<p>教材：</p>	<p>English Pronunciation in Use, Intermediate, Second Edition; Cambridge University Press 上記 a) Unit 15 と、d) Unit 47 から始めます。</p>
<p>備考：</p>	<p>「聴く・話すための発音 I」(中級)の中上級講座です。本講座受講の目安としては、「聴く・話すための発音 I」を三期以上履修された方を対象とします。</p>